

て****+++++---* +---****+++++---* +---****+++++---* +---****+++++---*

憲法しんぶん 速報版
 発行 憲法改憲阻止各界連絡会議 (憲法会議)

Eメール mail@kenpoukaigi.gr.jp TEL03-3261-9007
 ホームページ http://www.kenpoukaigi.gr.jp FAX03-3261-5453

2019年12月12日 (木)

NO. 1021号

本号3頁

「桜を見る会」疑惑の真実を語らぬ、安倍首相を逃がすな! **臨時国会閉会日に、憲法共同センター「9の日」宣伝行動**

臨時国会の閉会日の9日昼、野党が「桜を見る会」問題の徹底究明のため40日間の国会会期の延長を求める中、憲法共同センターは新宿駅西口で「9の日」宣伝を行い、11団体33人が参加しました。

行動では、全労連が『桜を見る会』疑惑の幕引きを許さず、真相究明を求めるべきか」と問うシール投票に取り組みました。「YESが56人」、「NOが4人」という結果になりました。YESと回答した方たちから、「もちろんです!」「当然!」「安倍さん、ずるい!」「野党は国会をぶっ壊すくらいの気持ちでがんばってほしい」「消費税をあげておいて…」などの声が寄せられました。

また、3000万人署名は58人分集約されました。

全労連・小田川義和議長は「桜を見る会」疑惑の徹底究明に背を向けている与党や安倍首相の姿勢を「とんでもないことだ」と批判。「安倍首相は疑惑に対し、説明していない。潔白と言うなら、証拠を示し説明すべきだ。この国のあり方が問われている」と指摘。そして、憲法問題について「安倍首相は諦めておらず改憲発議をねらっている」と引き続き安倍9条改憲阻止にむけたたたかいを呼びかけました。



日本共産党・山添拓参院議員は「野党は予算委員会を開き、首相が一問一答で疑惑に答えるよう要求してきたが、安倍首相は応じなかった。いま、野党が一致して40日の会期延長を衆院議長に申し入れ、論議されている。首相が疑惑に対し、説明責任を果たすことは当然のことではないか。民主主義、立憲主義が守られ、憲法を生かした政治を市民と野党の力で実現しよう」と呼びかけました。

憲法会議事務局長の高橋は、臨時国会で国民投票法改正案の採決や自民党の改憲案の提示を許さなかったのは「安倍政権に対する国民の世論の力であり、3000万人署名運動の広がりだ」と強調。「安倍首相は諦めていない。改憲反対の世論を広げ、『安倍辞めろ』の声をあげ、退陣に追い込もう」と訴えました。

原水協・安井正和事務局長は「安倍政権は、自衛隊の中東派兵を閣議決定しようとしている。中東では緊張感が高まっており、そういう場所に派兵してよいのか。自衛官の安全は守られるのか。憲法・民主主義破壊の安倍政権を一刻も早く終わりにさせよう」と呼びかけました。民青同盟・鈴木平人常任委員は「多くの青年が将来に不安を感じている。消費税増税では追い詰められている。政治を変えるのは待たなし」と訴えました。全労連・長尾ゆり副議長は「憲法62条には国政調査権が、63条には大臣は国会での説明を求められたら出席しなければならないと書かれている。憲法を守ることは首相の義務だ。説明責任を果たしてほしい」と強調。「憲法9条をシュレッターにかけるわけにはいかない。憲法を壊させてはいけない。安倍首相のウソから日本を守りましょう」と呼びかけました。

都内では同日、大塚駅南口で「オール大塚」宣伝も取り組まれました。10団体30人の参加で実施し、署名を55筆(3000万署名34筆、オスプレイ署名21筆)集め、配布物350枚(ウェットティッシュ20枚、ハガキ入りティッシュ330枚)を配布しました。

安倍首相、憲法改正「私の手で成し遂げていきたい」と会見!

安倍首相は9日、臨時国会が閉会したことを受けて首相官邸で記者会見しました。その中で、憲法改正について「必ずや私の手で成し遂げていきたい」と述べ、自民党総裁任期の終わる2021年9月までの実現に強い意欲を示しました。一方、首相主催の「桜を見る会」については冒頭発言では触れず質問に応え、全般的な見直しを行う考えを強調したに過ぎませんでした。

首相は、今国会で憲法改正に関する国民投票法改正案が成立しなかったことについて「誠に残念だ」と指摘。その上で、「国民的関心は高まりつつある。自民党が先頭に立って、憲法改正に向けた歩みを一步一步着実に進めていきたい」と語りました。

国民の反対の声など、全く届かないようで、いつものように、来年1月に召集される通常国会では「与野党の枠を超えた活発な議論を通じ、令和の時代にふさわしい憲法改正原案の策定を加速させていきたい」と述べ、改憲に意欲を示しました。

桜を見る会については、「招待者の基準が曖昧で、結果として招待者の数が膨れ上がってしまった。これまでの運用を大いに反省する」と述べ、自らの責任で招待基準の明確化や招待プロセスの透明化などの見直しを行うと説明しました。

衆院解散・総選挙について問われると、「夏の参院選が終わったばかりで、参院選で約束したことを実行しなければいけないと頭がいっぱいだし、そのことに集中している」と強調。「国民の負託に応じていく上で、国民の信を問うべき時が来たと考えれば、解散総選挙を断行することに躊躇はない」とも語りました。

首相はまた、この間の外交の連続の失敗にも関わらず、イランのロハニ大統領の来日を「現在調整している」と明言し、「この地域の緊張緩和、情勢の安定化に向けて、可能な限りの外交努力を尽くしていきたい」とも力を込めました。

一方、立憲民主党などの野党は9日、今国会での内閣不信任決議案の提出を見送りました。与野党が桜を見る会を巡り、閉会後も内閣委員会の理事会で政府から説明を受けることで合意したことを受け、「提出の必要はない」と判断したためです。

野党は40日間の会期延長を求めましたが、衆院議院運営委員会は与党の反対多数で否決しました。国民が説明不足と訴えているのに、「国民は持ち食えば忘れる」と思っているのでしょうか、逃げの一手です。



中東派遣の政府説明に自公両党から質問続出 調整継続へ

中東地域への自衛隊派遣について、自民、公明両党がそれぞれの党内で会議を開いて政府側から検討内容の説明を受け、出席者からは派遣期間や活動範囲などについて質問が相次いだため、引き続き政府側と調整を続けることになりました。

中東地域への自衛隊派遣について、政府は、海上自衛隊の護衛艦1隻の新たな派遣と、アフリカで海賊対処にあたっている哨戒機2機の活用について、今月20日にも閣議決定する方向で具体的な内容を検討しています。

9日は自民、公明両党が、それぞれの党内で安全保障に関する会議を開き、政府側は、活動範囲はオマーン湾やアデン湾などとし、ペルシャ湾は含めない方向でいることや、「調査・研究」の一環として派遣するものの、状況が変化すれば日本に関係する船舶の安全確保のため、海上警備行動の発令を想定していることなどを説明しました。

これに対して、自民党の会議では「ペルシャ湾で不測の事態が起きても対応できないのか」とか「日本と関わりのない船から助けを求められたらどう対応するのか」といった質問が相次ぎました。



また、公明党の会議では、派遣に慎重な立場から、必要性や派遣期間についてさらに具体的な説明を求める意見が出され、両党はそれぞれ改めて会議を開き、政府側と調整を続けることになりました。公明党の山口代表は、記者団に対し「新たな危険を呼び起こすことにならないよう、いろいろな配慮をしたうえで、これまでは防衛省設置法の規定を安易に適用するのではなく、特別措置法を作って対応してきたことも考慮に入れながら、どういうルールが可能か、しっかり検討してもらいたい」と述べました。

イージス・アショアの秋田・新屋への配備案見直しか？

秋田憲法会議も参加します憲法改悪反対秋田県共同センターや、戦争法廃止実行委員会、平和委員会などが配備反対と訴えてきたイージス・アショアの配備に大きな動きが出ています。

政府は地上配備型迎撃システム「イージス・アショア」について、秋田市の陸上自衛隊新屋演習場への配備計画を見直す方向で検討に入りました。政府関係者が10日、明らかにしたものです。住宅密集地に近いことへの批判や、事前調査でミスを重ねた防衛省への地元の反発が根強く、理解を得るのが難しいとの判断に傾いたようです。菅義偉官房長官も住宅地との距離を考慮するよう既に防衛省に指示。政府が早ければ2025年としている地上イージスの配備時期が、ずれ込む可能性が出てきています。



佐竹知事は4日、県議会で「ただちに配備候補地から除外されることはないだろう」と答弁していますが、5日には穂積秋田市長が候補地の陸上自衛隊新屋演習所について「常識的には候補地から除外される」と発言していました。

新たな配備先については、新屋演習場を選定した過程で浮上した、秋田県内を含む別の19カ所を中心に検討するとみられます。新たな候補地で決まれば、その地で新たな配備反対のたたかいが起こることでしょう。北朝鮮と米国の会談行われ、朝鮮半島に平和と非核の動きがすすむなかで、2機で6000億円もするイージス・アショアの配備は必要なくなってきており、ただちに配備そのものを撤回すべきです。

各地のとくくみ

大阪 12.3 おおさか総がかり緊急集会に300人

「政治の私物化許さない！」「安倍政治終わらせよう！」と3日開催された「おおさか総がかり緊急集会」に300人が参加しました。集会後、イチョウがまっ黄色にそまる御堂筋をなんばまで市民パレードを行いました。この集会は、11月21日のおおさか総がかり行動実行委員会で開催を確認し、わずかな期間で準備を行いました。



「桜を見る会」をめぐる安倍首相の不誠実極まりない対応が続く中で怒りが沸騰。側道一杯に広がった参加者に沿道からも多くの声援が寄せられました。

集会では、しないさせない戦争協力関西ネット共同代表・中北龍太郎さんが開会あいさつ。立憲民主党・村上賀厚さん、社民党・大椿裕子さん、日本共産党・辰巳孝太郎さんが政党からの報告とアピール。1000人委員会大阪共同代表・米田彰男さんが団体アピール、大阪憲法会議・共同センター事務局長・山田憲司さんが閉会あいさつを兼ねて団体アピールを行い、安倍首相への抗議文・「桜を見る会」追及本部への激励決議を拍手で確認しました。

〈憲法共同センターニュース 12月9日号より〉